

有機質肥料 土姫

肥料3元素の成分量

窒素	4.5%	675g/袋 (15kg)
リン	4.2%	630g/袋 (15kg)
カリウム	1.0%	150g/袋 (15kg)

※価格についてはお問合せください

【特徴】

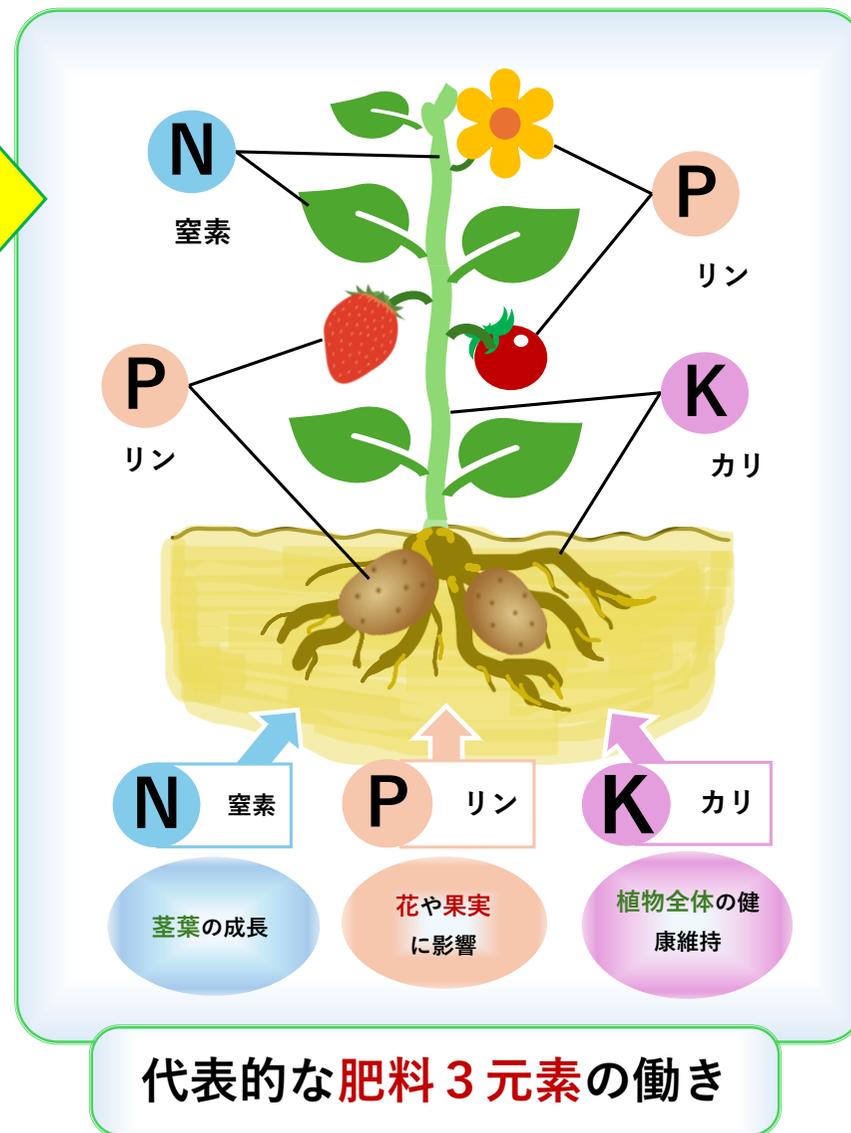
- ・ 土壌中の微生物によって分解されてから植物に吸収されるため、肥効が現れるまでに時間がかかるが、効果が長く持続する。ゆっくり効いてくる緩効性の肥料である。
- ・ 有機質肥料を施用することで、土壌中の微生物が活性化し、団粒構造を形成・発達させ、生物の生育に適した環境を作り出す。

【メリット】

- ・ 微生物によってゆっくりと分解され、効果が長く持続する。
- ・ 化成肥料と比べて、土壌や水質の汚染を防ぎ、生態系にも良い影響を与え、土壌環境を改善し土壌を育てる。(保水・団粒構造・微生物など)
- ・ 廃棄物、排泄物を利用するので、無駄のないリサイクル資材。
- ・ 化成肥料に比べ価格が安い。
- ・ 多めの施肥や、追肥を行っても肥料やけしにくい。
- ・ 廃棄物や排泄物の再利用のため、環境負荷が低い。

【デメリット】

- ・ 土壌微生物によって分解されながら栄養素を植物に供給するため、効果が現れるまで時間がかかる。
- ・ 化成肥料に比べ、成分量が低いため施肥の回数を増やす必要がある。また、足りない養分(カリなど)を補うための施肥も必要。
- ・ 臭いが強い。虫や鳥を寄せ付けやすい場合がある。



代表的な肥料3元素の働き

堆肥化（肥料）による効果

◆堆肥化（たいひか）

堆肥化とは、生ゴミや汚泥などの有機物を微生物に力で分解し、堆肥（肥料）を作ること。
コンポスト化 (composting) とも呼ばれる

◆土壌への資源循環

植物は窒素、リン、カリウムなどを土壌中から吸収し、取り出してしまう。これを土壌中に還元するため 堆肥化（肥料）は有効である。

◆原料の汚物感・臭気の解消

残飯、汚泥は独特の汚物感や臭気を持つが、堆肥化（肥料）によって著しく減少させることができる。

◆細菌、害虫、雑草種子の不活性化

堆肥化（肥料）の過程で温度は70° C前後まで上昇する。この温度上昇によって、病原細菌、病虫卵、ウイルス、雑草種子などの大部分が不活性化され、衛生的な堆肥ができる。

◆ゴミの減量

排出される生ゴミのほとんどは水分である。このため、清掃工場で生ゴミを焼却処理する場合、水分を蒸発させるために大量のエネルギーを要し、焼却温度が低下しダイオキシンの発生、また焼却温度を維持するために大量のエネルギーが浪費される。堆肥化（肥料）によってゴミとしての排出量が抑えられる。（堆肥として利用されずに排出されてもこの問題は解消される。）